

## 令和2年度 第3回下野市社会教育委員会議 議事録

- ・ 審議会等名 令和2年度 第3回下野市社会教育委員会議
- ・ 日 時 令和2年11月20日（水）午前9時30分～11時30分
- ・ 会 場 下野市役所3階303会議室
- ・ 出席者 五月女洪委員長、花澤公久副委員長、秋山貴子委員、石崎雅也委員、青木ムツミ委員、海老原新子委員、水田あけみ委員、大塩宗里委員、菅井貞雄委員、石川知子委員、増淵晴美委員  
【欠席委員】 石田委員、高山委員  
（図書館協議会）鈴木副委員長  
（事務局）篠崎生涯学習文化課長、浅香課長補佐、漆原主査、本橋主事  
齋藤公民館長、伊澤図書館長補佐
- ・ 公開・非公開の別 (  公開 ・  一部公開 ・  非公開 )
- ・ 傍聴人 なし
- ・ 報道機関 なし
- ・ 議事録（概要）作成年月日 令和2年11月27日

### 【協議事項等】

#### 1. 開会

#### 2. 委員長あいさつ（五月女委員長）

朝から皆様には第3回社会教育委員会議へご出席いただき、感謝申し上げます。新聞を見ると、毎日コロナのことが載っており、我々も十分に留意していかなければならないと思っている。本日は図書館基本計画についての話し合いを行うので、ぜひよろしくようお願い申し上げます。

#### 3. 教育長あいさつ（池澤教育長）

6月に諮問をした公民館振興計画及び図書館基本計画について、本日の会議の中で協議していただく。公民館及び図書館の基本的な今後5年間の活動について、審議の程よろしくようお願い申し上げます。

#### 4. 議題

（事務局）議題の進行は委員長にお願いします。

##### （1）第二次下野市図書館基本計画（案）について

（五月女委員長）本日は図書館基本計画について協議いただく。図書館は、社会教育法に基づく公民館とは位置付けが異なり、学校を支援するという目的も含まれている。また、市民のニーズに応えた文化的な活動の支援もあり、市民に目が向けられるようになっていく。では、来年度からの図書館基本計画（5か年計画）について、事務局より説明を求める。

（伊澤館長補佐）資料「第二次下野市図書館基本計画（案）」に基づき説明。

- (五月女委員長) 図書館基本計画について、ご意見いただきたい。
- (水田委員) 第Ⅱ章下野市立図書館の現状と課題 1子どもの読書環境、において「令和3年3月に策定した～」とあることについて、確認したい。
- (伊澤館長補佐) 現在、同時進行で進めている第四次下野市子どもの読書活動推進計画が、図書館基本計画と同様令和3年3月に策定されることから、先のことだがそのように記載した。
- (五月女委員長) 現在、子どもの読書離れが目立ち、小学生については読書量はあまり変わらず推移しているが、高校生や大学生の読書離れは顕著である。本を一冊も読まないという人も増え、タブレット等での電子書籍を利用しているという人も多くなってきている。図書館に行かなくても読書ができる環境がある。小中学校では読書の時間を設けて読書を推進しているが、それでも活字離れは顕著である。青木委員はそのあたりについてはいかがか。
- (青木委員) 図書館協議会で検討した結果、この計画内容になったが、分からない用語などがあれば事務局にお尋ねいただきたい。
- (菅井委員) 先ほど読書離れの話もあったが、中学生の実績をみると平成30年度では3.5冊（1か月の読書量）に対し、令和2年では5.3と大きく上がっている。これは中学校で何か「仕掛け」を行ったということか。それとも単なる自然増か。
- (石崎委員) 色々な取り組みを行っているが、これは以前から行っていることである。特に今回に限ってということではない。
- (菅井委員) 一般に高学年になるに従って読書離れが進む傾向にあると思うが、中学生で上がっているというのはすごいことである。
- (石崎委員) 現在、小中一貫に関する取り組みが進んでいるが、小学校で読書好きに育った子どもがそのまま中学生になり、結果として増加したとも考えられる。
- (青木委員) 中学校でのビブリオバトルも盛んになってきたので、それに刺激を受けて読んでいる子どもたちもいるのかなと思う。ビブリオバトルももっと普及させたいが、なかなか普及活動ができていないのが現状である。
- (菅井委員) 高校生は結構、各学校の代表を集めてビブリオバトルをやっている。
- (青木委員) ビブリオバトルは、最初は京都大学で始まり、それがだんだん認知されるようになった。南河内第二中でも比較的盛んだと聞いている。それがもっと普及すると「読んでみたい」と思う子どもたちが増えてくるのかなと思う。
- (五月女委員長) 現在、読書ボランティアの方は増えつつあるのか。それとも減少傾向にあるのか。
- (青木委員) 増えてはいないが、録音のボランティアは結構沢山いる。学校関係は、自分の子どもが卒業すると辞めてしまう方が多い。
- (五月女委員長) それが課題である。子どもが卒業してしまうと、学校と疎遠になってしまう。
- (石崎委員) この資料でいうと11ページ並びに17ページに書いてあるが、図書館ボランティア

アの方々による読み聞かせの施策「図書館ボランティアによる小学校での読み聞かせの開催等、読書普及活動の充実を図ります」はぜひ実現していただきたい。今年度、国分寺小学校及び国分寺東小学校の読み聞かせボランティアの方に国分寺中学校に来ていただき、生徒たちに読み聞かせの仕方を教えていただいた。今度、その教えを受けた子どもたちが小学校に行って読み聞かせを行う予定である。ただ、読み聞かせボランティアを行う人が足りないという事情もあるようである。そういった悩みも聞いた。

(石川委員) この計画の体系図の基本理念では「子ども・市民の豊かな心の育成と地域文化の向上を目指して」となっているが、何故、図書館という社会教育施設において「子ども」という言葉がトップにくるのだろうかという率直な疑問がある。また、基本施策に「学校との連携による子ども読書活動の充実」とある。この「学校」とは小中学校のことを指しているのだと思うが、高校生との連携がごっそり抜け落ちているような印象も受ける。

(五月女委員長) 何故「子ども」が「市民」より先にきているのかということであるが、これは今までの図書館の流れによりこのようになったのではないかと私は思う。図書館というのはもともと学校支援という目的もあったので、その後に「市民」という言葉がきているのだと思う。

(秋山委員) 本校にも読み聞かせの方に入っていたが、低学年の方が食いつきが良い。先ほどボランティアの話もあったが、既存の団体に新しい方が入るのが難しいのだと思う。新しい人は新しい人同士で組みたいのかと思う。新しい方を育てると同時に、既存の方々との活動を調整できれば、新しい方々の活動も続いていくのだと思う。

(増淵委員) 1ページの「図書館をめぐる法整備等」のところで、「視覚障がいなど読書に困難を伴う方への図書館サービスのあり方を考えるべき法律が施行され、図書資料や施設・設備等への対応も急務となっており、多方面から図書館経営に関するビジョンが求められています」となっているので、これが計画のどこかに反映されているべきだと思う。それが14ページの「誰もが利用しやすい図書館サービスの提供」の中にあるハンディキャップを持った方へのサービスのことなのだと思うが、既存の取組みではなく、新しい取組みもあると良い。また18ページの「計画の推進体制」であるが、ここが重要な鍵となっている。平成28年度に策定し、4年を経て新たに改訂される訳なので、「本計画では、3館を指定管理館とし、従来からの幹事館で利用者数の多い石橋図書館を統括館と位置づけ、市が経営にかかる基幹的業務を行い、定型的な図書館業務を指定管理者が実施します」となっているところを、引き続き、「本計画においても」というような表現にしたほうが良い。また、「南河内・国分寺図書館は、地域館として指定管理者が運営する方法を構築します」となっているが、

既にやっているので「構築」という言葉ではなくても良いと思う。

(2) 第二次下野市公民館振興計画（案）について

(五月女委員長) 第二次下野市公民館振興計画（案）について、事務局より説明を求める。

(齋藤館長) 資料「第二次下野市公民館振興計画（案）」に基づき説明。

(五月女委員長) 事務局から説明があったが、質問等があればご意見をいただきたい。

(青木委員) 18ページに「コロナウィルス等」とあるが、これは「新型コロナウイルス感染症」とした方が良い。

5. その他

(事務局) ご指摘いただいた箇所は事務局で修正等させていただく。12月に下野市人権講座及び人権講演会を開催するので、ご都合のつく方は参加をお願いしたい。

6. 閉会

(事務局) 次回会議は12月18日（金）9時30分からとする。